****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第 132 号
−環境・農業・食べ物など情報の交流誌−
2004.04.15（木）発行　　山崎農業研究所＆編集同人
＜キーワード＞
環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所＆『電子耕』編集同人が編集・発行。
http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm
**********発行部数　1625　部**********

□　目　次　　□----------

＜今週の提言＞コイヘルペスによる霞ヶ浦養殖コイの大量死　田渕俊雄
＜読者の声＞丹羽さんから：田口さんから
＜日本たまご事情＞鳥インフルエンザ　終息宣言　愛鶏園・齋藤富士雄
＜不定期エッセイ・79 歳の独り言＞パソコンの魔力　原田　勉
＜私の農的生活・10＞開花と着果、それから剪定整枝等の作業　石川秀勇
＜丹羽敏明の戦争体験＞32
今だから話そう―『タピオカ』にみる終戦秘話（その２）
＜農文協図書館情報＞農文協図書館・原田太郎
●「一般に流通していない農業書リスト」2004　プレゼント！
＜編集後記・同人の近況報告＞４月１日ー４月 14 日

＜今週の提言＞コイヘルペスによる霞ヶ浦養殖コイの大量死

昨年 10 月霞ヶ浦で養殖コイが大量に斃死した。当初は 600 トン（約 40 万匹）であったが、最終的には 1100 トンに達した。コイヘルペスウイルス（ＫＨＶ）が確認され、11 月には養殖コイの移動が禁止された。12 月には生きているコイも含めて全量処分が決定、国・県・市町村の負担で価格の８割補償が行なわれることとなり、処分量は 2467 トンにもなった。

感染ルートはまだ不明であるが、養殖コイだけでなく自然のコイも感染した。コイヘルペスは他の魚には感染しないという。また霞ヶ浦の養殖コイと関係ない地域でも発生した。現在は水温が低いので発病しないが、水温が上昇するとともに病気が再発するのかどうか懸念されている。自然水系のウイルスを消滅させることは不可能で、野生コイへの対策はないといわれている。養殖業者の中にはコイ養殖を永続するのが困難とみて、廃業を検討し補償を要望する動き

がある。

霞ヶ浦でのコイの養殖は、容積 50m3 の網イケスの中に約５トンのコイが飼育されている。これは体重１キロのコイだと 5000 匹となり、かなりの高密度飼育である。また霞ヶ浦の水は飲用水源として使われているので、住民の中にはその安全性を懸念する声もあるが、ウイルスは塩素消毒とろ過で防げるので心配ないといわれている。

コイヘルペスは鳥インフルエンザと違い、人間には感染しないといわれている。そのため、鳥インフルエンザほどの危機感はもたれていない。しかしコイの飼育場が囲われた飼育場ではなく、霞ヶ浦という自然の湖である。網イケスの水は霞ヶ浦の水そのものであり、養鶏場のように安易に消毒はできない。自然環境の中での養殖であり、環境との関連は密で、十二分の注意が必要である。

ＢＳＥ、鳥インフルエンザ、コイヘルペスと食の生産の場での一連の病害が続いているが、これは生態系からの警告であろう。人工的な飼育場での高密度集中飼育には大量死の大きなリスクがある。病害が発生すれば壊滅的な被害をもたらし、人間への健康障害や食料供給の遅滞・混乱をともなう。またこのような場で飼育された生き物の食品としての安全性や病害に対する抵抗性はどうなのだろうか？　薬による防御には限界があるのではないだろうか。

高密度生産システムに対しては様々な面からの安全性、環境保全性、持続性の検討が必要である。そして一般の農業・畜産・水産の生産の場においても、程度は違うが本質的には同じことが求められているのではないか。

田渕　俊雄
元東京大学教授・山崎農業研究所顧問
y.noken@taiyo-c.co.jp

＜読者の声＞

=-

●04/12 丹羽敏明さんより：

131 号の配信ありがとうございました。

週間文春の販売停止判決（高裁で取り消しになりましたが）で世論が沸きました。中に検閲制度の復活を懸念する意見がありました。今の現役世代の人たちには検閲制度と言ってもピンとこないかも知れませんが、私たち世代は検閲制度の真っ只中を過ごして来ましたので、その恐ろしさを身にしみて体験しています。

戦時下の出版界は、日本出版会という統制会社が途轍もない強大な権限をもっていました。出版社の整理統合、出版物の統制、用紙割り当ての権限など、業界を思うままに動かしていました。Ｂ４判大の「出版物企画届」という用紙に出版物の企画目的、目次、ページ数、装丁、印刷部数など具体的に記入して、日本出版会に届け出て許可をもらうわけです。

許可されない場合もあり、また必要度によって部数を減らされることもあります。ですから企画届の記述内容は如何にこの出版が国策に沿った必要なものであるかをアピールしなければならないので、そこが編集者の腕の見せ所になるわけです。そしてその可否を決定する出版会の担当者が出版社の生殺与奪の権を握っているわけです。

こういうシステムがもたらすものは、必然的に時の権力者に迎合した出版活動にならざるを得ません。そうしなければ経営的に成り立たないからです。こうして軍国主義は否応なく国民全体に浸透し戦争目的の達成に動員されたわけです。

出版会が出来る前は内務省の図書検閲係（今の人事院ビルの二階にあったと思います）にゲラ刷りを届けた記憶があります。そこでＯＫが出なければ出版は不可能でした。それから軍艦とか航空機などの写真を掲載する場合は、市ヶ谷にあった陸海軍報道部の掲載許可を得る必要がありました。

終戦後は連合軍司令部（ＧＨＱ）の検閲があり、やはりゲラ刷りを届けてＯＫをとる必要がありました。場所は中央郵便局の２階か３階に部屋があって二世の米軍将校が担当していた記憶があります。主な狙いは軍国主義・全体主義的思想の復活阻止だったと思います。戦時中ほど難しい検閲内容ではなかったような気がします。

検閲から解放されたのは何時だったか記憶にありませんが、検閲制度なんて

ものはどんな形にせよ絶対に復活させてはいけません。

=-

●04/12 田口均さんから：

イラクで３人の邦人が拘束されました。４月 12 日、正午現在、３人の安否は確認されておりません。ご家族ならびに関係者の方々の心中を察しますと胸が痛みます。

この事件については、作家の池澤夏樹氏のコメントが簡にして要を得ていると思います。

パンドラの時代　008　　３人の誘拐について大急ぎで（April 09, 2004）
http://www.impala.jp/pandora/index.html

日本国政府はアメリカに寄り添い・従うかたちでの自衛隊派兵を一刻も早く取りやめるべきでしょう。

なるほどサマワの市民についていえば、自衛隊が軍事目的でやって来ているのではないというように理解しているかもしれません。しかしいま問題なのは、ファルージャでの戦闘行為に象徴されるような米国主導型の占領政策が、イラク国民はもとよりアラブ社会の支持を得られないということです。

日本はアラブ地域で尊敬されている唯一の先進国（先進国という言い方には相当のひっかかりを覚えるのですが、それはひとまず置きます）であるとも聞きます。このポジションのもつ意味をあらためて噛みしめる必要があるでしょう。

信頼関係なくしては復興支援もなにもありえません。イラク復興特別措置法の規定にしたがっても撤退すべきです。

＜日本たまご事情＞鳥インフルエンザ　終息宣言

---

4 /13 京都府が鳥インフルエンザの終息宣言をした。

この問題は全国の養鶏生産者を震え上がらせたのみならず、人間への安全性のことで社会面のトップニュースとなり続けた。
これだけ養鶏業界の悪いニュースを立て続けに流されると、予想されたとおり、風評被害が拡がり、鶏肉、鶏卵の消費量は落ち込みはいまだに回復していない。

幸いなことに日本では人間の被害はなかった、まず心配なのは毎日鶏に接している養鶏場の私たちであって一般消費者の方々ではない。
京都の養鶏場においてあれほど大量に鶏が死に、鳥インフルエンザ病原菌が鶏舎内に充満したにもかかわらず、そこで作業していた従業員の人たちは何でもなかったことは本当に幸いだった。
今回京都の鳥インフルエンザ病原菌は人間には悪さをせず、家禽類だけを殺していった。

不幸なことにタイ、ベトナムでは鳥インフルエンザに感染し合わせて 22 名の人たちが亡くなった。
病原菌のタイプが日本のそれと同じかどうか専門家にまかせるが、いずれも鶏との接触が多い人たちに起きているし、衛生環境も悪い。
そしてそれが人間から人間へと感染した例はない。

残念ながら牛のＢＳＥ騒ぎのときも同じであったが、「食品の安全」という錦の御旗のもとに繰り返されるマスコミの狂想曲、それに便乗した税金の無駄使い……
いつまでも国民はそれを許してはくれまい。

齋藤　富士雄
（株）愛鶏園
http://www.ikn.co.jp/

＜不定期エッセイ・79 歳の独り言＞　パソコンの魔力

パソコンには、熱中させる魔力がある。

インターネットを通じて世界中どこへでもメールが届く。イラクの人質問題でも、盛んにパソコンを通じてのメール交流がある。それがテレビでも報道さ

れる。だからますます全世界に普及し、今ではパソコンなしでは政治も文化も生活も成り立たなくなっている。

　しかしパソコンも良いことばかりではない。

　ワープロで文章を作成するにも、インターネットで検索するにも、次々と作業が画面上に続く。つい休みなしに長時間、画面を見続け眼を酷使することになる。

　さて、小生は思いきってパソコンを止めたが、止めてみてイライラしている。麻薬が断たれたような、禁断症状に似た不安におそわれている。パソコンは魔力があるという理由だ。

　友人からパソコンを止めて、代わりに何をするんだ。呆けるぞと警告してきた。視聴覚障害をかかえた百歳以上の近藤先生につかえていて何を学んだのか。と問われている。

　改めて近藤先生の長寿法を学び「ぼけ予防」を考えてみる。今後、時々、電子耕にも手書き通信で＜79 歳の独り言＞として表現していくことをお願いしたい。

　当面は、歩くこと（通勤・散歩）と書くこと（考えをまとめて書く、話す）から始めよう。自分自身のぼけ予防のために。

原田　勉
山崎農業研究所会員、電子耕編集同人
tom@nazuna.com
http://nazuna.com/tom/

＜私の農的生活・10＞開花と着果、それから剪定整枝等の作業

　ブルーベリーは４月から５月にかけて開花期を向えます。花は、ツツジに似た釣鐘状の小花で、下向きに開花します。小花には雄ずいと雌ずいとを持ちますが、結実には他花受粉が必要で、特にラビットアイでは品種を混植しないと、結実が良くないとされています。

実が熟し、収穫できるようになるには６月から８月にかけてで、品種によって違っています。大雑把にいうと、ハイブシュの品種が早く（６月から７月）、ラビットアイの品種は晩い（７月から８月）熟期となります。そこで、熟期の異なるいくつかの品種を選んで植えています。

果実は、ご承知のような小粒で、それが房状に着きます。ただ各粒の熟すのは一斉ではなく、早く開花して結実した粒は早く、後から開花して結実した粒は晩く熟します。熟すと果皮が明青色に変わり、それを目で見ながら摘み取り（収穫）をすることになります。

植え付けから２ー３年は花を摘んでしまい、実を着けないようにと言われています。木の成長に影響し、良くないからという理由からです。

成木になるのは、植え付けしてから７年目位とされています。それまでは成長に合わせて、また成木になってからも、毎年冬、剪定整枝をする必要があります。「混み合った枝、交差している枝、弱い枝などを切るとともに、主軸とする枝を伸ばすようにする。その主軸枝を６ー７本とし、樹冠内部まで太陽光線が入るように」、というのが技術の要領です。

それから、実を着ける枝のことを結果枝といいますが、この結果枝につく花（果）芽の数を、剪定作業のとき２ー３個を残して、その先を切りつめるということをします。そうしないと実を多くならせ過ぎて、果実が一層小粒になるからです。

最初（平成 11 年）に植えたラビットアイの３品種は、人の背丈ほどの高さになってきています。しかし、その後に植えたハイブシュの各品種は成長がゆっくりで、大分差があります。ですが、上述のような必要な作業をこれかも重ねることで、ハイブシュの各株もそれらしい姿になってくるだろう、と思いながらやっています。

石川　秀勇
山崎農業研究所会員、千葉県野田市在住
y.noken@taiyo-c.co.jp

＜丹羽敏明の戦争体験＞32
今だから話そう―『タピオカ』にみる終戦秘話（その２）

前回に引き続いて、私が編集・発行の責任者として発刊した『タピオカ』に寄せられた記事の中から抜粋・要約して紹介したい。

『須賀進（憲兵将校、三重県在住、８８歳）＝昭和１６年、バンコックで出稼ぎの華僑に扮した私たちはシンガポール潜入の命令を受け、夜間潜行してマレー半島を南下、やっとの思いでシンガポールに潜入、先行の光機関の指揮下に入った。待っていたのは命令につぐ命令、手段を選ばずあらゆる策略を用いての情報収集、どのような卑劣な行為も任務のうちである。翌年シンガポール総攻撃が始まるまでの１カ月余、全くの死に物狂いであった。そして総攻撃が開始されるや、これがまたすさまじいの一言に尽きる戦いであった。友軍は人員、弾薬共に少なく苦戦している様子だった。夜を待っての白兵戦、日に日に変化してゆく街の様子、住民のテロ、暴行、略奪、多民族の街の日頃の不満の爆発に手のつけようもなかった。それに加えて豪軍・印度兵の動き、なにか変である。日が暮れるにしたがって右往左往する英軍、仲間の知らせで陥落も時間の問題であることがわかった。忙しくなって来そうである。２月１５日、英軍は降伏した。敵の統制は崩れ、暴兵達は街内で略奪、暴行を始めた。英軍の要請により日・英憲兵と共にわれわれも協力のため出動した。あちらこちらの部落から悲鳴が聞こえ、手のつけようもない状態である。婦女暴行、虐殺の激しさに思わず抜刀し短銃をぶっ放して彼らを追っ払った。昭南特別市と改名されたその日から、一段と忙しい毎日となった。南方総軍司令官直属として新たな隊が編成され、四方少佐（終戦時自決）を長として周藤大尉（終戦と同時にインド軍に）、清田少尉（私）、野邑少尉、そして原住各民族の協力者総勢１５名をもって本格的任務が開始された（反日華僑の粛清、サカイ族の反乱鎮圧）。各種民族との交際、習慣、生活様式、そして判断、考え方、学校時代に教わったのと違う現実。それにもまして一番困ったのは、攻める仕事から守る仕事への頭の切り替えが大変だった。協力してくれる、いや協力させられている原住民への配慮、苦しかった。マレー義勇軍、インド国民軍の教育等、本当に大変な一時期であった。さらに私たちを悩ます問題、戦勝国軍隊の常に驕る姿にどれだけ悩まされたことだろう。それでも日常の私生活はいろいろと教えられることが多かった。軍から雇傭され配置されたボーイ（陳永昌）、アマ（張美英）、ハウスキーパー（アイビー）等から現地人の生活様式を教わった。占領当時の暑い１年間が２年３年ともなると、夜は肌寒さが判り、酒に依存するようになる。当時現地人の生活費として月１５円から２０円もあれば十分で

ある。われわれに協力してくれた現地人には７０、８０円の手当てが支払われていた。ただしハウスキーパー の給料は自分のポケットマネーから支払わねばならなかった。

昭和１９年も半ばを過ぎたころ、戦局は日々思わしくなく、友軍内にも変な空気が流れ出した。当然現地人の間にも。現況の一番判っている我々がこれを知らぬ様子をする苦心、大変困った毎日であった。日本軍が不利と判ると占領時と同じようにテロが横行しはじめ、私も危うく一命を落とすところだった。そして最悪の状況がやってきた。今度は自分たちのように固有部隊なき者の処遇、兵籍偽造、転属、配置転換等不眠不休の連日であった。領有僅か３年半、実にいろいろなことがあった。３年半前の混乱の再現である。在留邦人の保全、武装解除、それにこのとき一番嫌な思い出として、一部隊長の職場放棄、その上支那娘を連れて行方をくらます事件が起きた。これを追跡調査して発見、憲兵隊と協力、射殺したことは私の頭からいまだに消えない。私もいろいろな悩みに精神的にも安定がほしかった。前々から私にカトリック教会に行くよう勧めてくれていたハウスキーパーのアイビーの言葉を思い出して教会に行くことにした。日本軍人が異国の宗教に関心を持つ危険、英語排斥を強要されながら英語を含めて外国語による任務遂行、矛盾だらけである。しかし不思議と教会に行くようになってからは、心の安らぎがあった。神父さんの話を通訳してくれるアイビー、３人による喜びが生まれ、私は何の抵抗もなく洗礼を受けた。私は幸いある部隊に一兵卒として参加させてもらい、清田少尉から須賀兵長となりイガグリ頭となった。終戦と同時にマライ義勇軍、インド国民軍からの勧誘、生に対する執着のためタイ国への逃亡未遂といろいろありました。結局クルアン飛行場周辺のジャングルで逮捕され、チャンギー刑務所に収容された。主客転倒そのものである。６畳一間ぐらいの部屋に下士官以下の者は３名、将校以上は一人の生活、昨日まで収容されていたオランダ兵が今日からは御主人様である。いやはや大変なことになった。一週間、十日はまだしも一カ月もとなると孤独は苦しい。

数日後、看守長らしき者が囚人全部を集め次のような要求がなされた。オランダ語での指令である。集合、整列、番号、今日ただいまから実施せよとのことで、これを実行しない場合は今夕食より欠食だという。一大事である。それでなくとも毎日深さ３センチに１２、３センチ四方のアルミ食器に、オートミル２回の死なぬ程度の粗食・微食、それを欠食されてはたまらない。だがまだ頭脳は健全であった。数時間でオランダ語を覚えた。番号（ヌメルン）、１（エイン）、２（ツエン）、３（ドリー）、４（フィール）等々。戦争犯罪者

としての裁判も始まった。昭和１３年に軍隊に入った貴様が昭和２０年の今日陸軍兵長とは訝しい。徹底的に調べられた。諜報機関の我々より彼らの方が一枚上である。終戦後まだ２、３カ月しか経っていないのに、私ごとき者のことまで知っている。全く参りました。今考えても、どうやってあの訊問・取調べの難関を乗り越えたのか判らない。前後３回調べられた。日本軍の取調べと違って実に紳士的であった。９０％の罪状があっても１０％の確証がなければ、疑わしきは罰せずなのである。これが私にとって幸いした。けれどその後がいけません。正面と横からの顔写真を撮られシンガポール新報という華僑の新聞に載せられ、現地人からの投書を待つ状況になった。期間は３日、この３日間の長かったこと、生きた心地はしなかった。それはそうだ、潜入から終戦まで終始シンガポールに居た私にとっては、よい思い出より悪いことばかりが頭に浮かぶ。ところが運命を決する３日目、一支那人夫婦による投書が私を救ってくれた。私は取調べ室に呼び出された。全身の血が逆流する思いで、一歩も自力で歩くことが出来なかった。助けられやっと部屋に入った。顔見知りの英軍大尉が一枚の写真を見せ、名前を言って笑みをうかべながらの質問である。けれど私の頭の中はボーッとして何が何だか判らない。頭ガンガン、胸ドキドキ、五体の関節はガタガタである。そして最後に本人たちに逢わせてくれた。子供二人を連れて入ってきた支那人夫婦は、かつて私が雇っていたボーイの陳永昌とアマの張美英だった。この二人は私が費用を出して縁結びをしてやった。そのことを恩義に着て釈放の嘆願にきてくれたのだった。

　数日後の２１年９月、私は仮出所を認められた。私の一生のうちでこんな嬉しさは二度とあるまいと思った。グレーの囚人服を脱ぎ捨て捕虜収容所（リババレー作業隊）に入った。それからも二度ばかり刑務所に呼び出され取調べを受けた。陳夫婦も復員まで三度ばかり面会に来てくれ、食べ物まで差し入れてくれた。』

（戦友会で一緒になったある日、須賀さんが「シンガポールから留学生を迎え入れて面倒を見ているんだよ」と言われた。私が理由を尋ねると、「日本軍は原住民の彼らに辛い思いをさせたから、せめて俺だけでもその罪滅ぼをしようと思って」と照れながら言って居られた。憲兵というとあまりいいイメージを持たれないが、須賀さんのような人も居たんだと思い私は感動した。）

＜農文協図書館情報＞（3/19 更新）

★ニュース:「一般に流通していない農業書リスト」2004 プレゼント！
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/sp/200403/news2.html

◆３月の新規収蔵図書
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/01new.html

◆話題の図書：
大久保裕弘 著　　農山漁村文化協会　発行
『誰でもできる手打ちうどん』/『誰でも打てる十割そば』
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/03wadai018.html

◎『誰でもできる手打ちうどん』A5 判 100 ページ
讃岐うどんのうまさに匹敵する腰の強さ抜群のうどんが、手を汚さず、寝かさず、足で踏むこともせず、30 分で打てて食べられる。中力粉はもちろん薄力粉でもおいしい家庭向けの手打ちうどんの画期的な技法を大公開。
発行日：2004 年 2 月 25 日
（注）
TBS テレビはなまるマーケット
http://www.tbs.co.jp/hanamaru/
2004 年 3 月 11 日放送「超簡単！手作りうどん」
http://www.tbs.co.jp/hanamaru/medama/040311.html
でも紹介されました。

◎『誰でも打てる十割そば』A5 判 100 ページ
家庭でお年寄りや女性でも楽に簡単に失敗なく十割そばを打てる「家庭派・大久保流」の「水回し棒法」「袋法」「容器法」による革命的そば打ち法を大公開。同時に、失敗しない従来の「木鉢法」によるそば打ちも詳述。
発行日：2002 年 11 月 25 日

■本当に誰でもできるのと、私も疑問に思った。農文協図書館にきて本物の蕎麦を打って食べさせてくれるという。やり方は簡単、鍋にいれたそばを水回し棒で撹拌するだけで生地が出来る。それを伸して切ればよい。私もご馳走になって驚いた。やり方のくわしいことはカラー写真でよくわかる。だれでも、どこでも、かんたんにそばを打てるポイントは「水回し棒」の発明だ。これは「思いっきりテレビ」に出しても面白いと思って推薦した。
とくに高齢者や女性にやさしい大久保流そば打ちをお試し下さい。

（農文協図書館理事：原田勉）

農文協図書館　　IT 担当　原田太郎
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/

●「一般に流通していない農業書リスト」2004　プレゼント！

新潟県農林公社『野菜栽培マニュアル』、日本緑化センター『イギリスにおける園芸セラピー』、日本林業協会『森林ハンドブック２００３』といった各種農業団体が関係機関内で配布普及するために出版、かつ一般の書店から入手するには困難な貴重な文献を多数収録した新年度年版目録が完成しました。通常頒価　３５０円　送料２５０円のところをご希望の方には無料でお送りします。

Ａ５判　１７５ページ　2004 年２月発行
企画・発行：農業書センター

【主な項目】ＪＡ農協関係／年鑑・名簿類／各種統計類／農業一般／地域・環境 ／経営・農地／税金・簿記／農薬・病害虫／土壌・肥料・生理／農業機械／栽培 一般／米・稲作／作物一般／野菜園芸／花卉園芸／果樹園芸／畜産／緑化・造園 ／特用・特産／森林・林産／漁業・漁協

ここに収録の書籍は一般書店や生協では入手が困難です。
一般書店に注文しても入手出来ない書籍が大部分です。
出版元別書名索引もついています。
ご注文は農業書センターが承ります。

ご希望の方は、以下の宛先に郵便かＦＡＸまたはメールでお申込下さい。

・郵便番号
・住所
・氏名
・電話
・Fax.
・E-mail アドレス
・ご勤務先など

ご記入の上、
【「一般に流通していない農業書リスト 2004」プレゼント希望】 と明記し、
お申込みください。

◆申込宛先
（社）農山漁村文化協会 農業書センター
Tel：03-3245-7647 Fax：03-3270-2800
〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-8-3 JA ビル
http://www.ruralnet.or.jp/avcenter/
mailto:book@mail.ruralnet.or.jp

＜編集後記・同人の近況報告＞（４月１日ー４月 14 日）

丹波地方は、ちょうど桜が満開、時折、うぐいすの声が聞こえる。世を騒がせた鳥インフルエンザの現地とはとても思えない。静かで平和な農村風景がそこにあった。

案内してくれた府の職員は、修羅場と化した当時を振り返える。

白い防御服に２重の手袋、ゴーグルに医療用マスク、予防薬飲み人１人やっと通れる鶏舎内の通路に入る。異常を知った鶏がけたたましく鳴き羽音で騒然となる。暴れる鶏をケージから引き出し５羽づつ袋に押し込み、炭酸ガスで窒息死させる。「空気は生ぬるく湿気のせいか、ゴーグルはベトベトと顔につく」。府の職員（各課から健康な 20ー40 代を動員）200 名が４班に分かれて作業を進める。各班作業は４時間としたが、「１時間半が限度」だったという。殺処分は、１日せいぜい 5000 羽程度。20 万羽余の処分は、何時終わることになるか。不安と疲労から食欲不振と不眠を訴える者もでる。

５羽づつ入れられたビニール袋４万袋は地下２ー３m に埋められる。４月 13 日鳥インフルエンザの終息宣言がでる。一件落着のようだが、３年後再び掘り起こされ最終処分されるという。ＢＳＥをはじめこの種の流行には終わりはない。今回の経験を先例とし、入れないことと同時に入ってしまった時の危機管理マニュアルの作成が急がれる。（山崎農業研究所・小泉浩郎）

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

１、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言い

たいことを具体的に。
２、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
３、１回１テーマ、10 行位に。
４、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
５、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。
http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html
インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

◎投稿アドレス変更のお知らせ

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、
y.noken@taiyo-c.co.jp
となっております。投稿される方はこちらのアドレスにお願いします。

次回　133 号の締め切りは４月 26 日、発行は５月６日の予定です。
　最後まで読んで頂き有り難うございました。今後もよろしくお願い致します。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45『メールマガジンの楽しみ方』
著者：原田　勉　定価：735 円　発行日：2002 年 10 月 4 日
発行所：岩波書店　ISBN4-00-700045-X
まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら
http://nazuna.com/tom/book.html

『電子耕』から大切なお知らせ
http://nazuna.com/tom/denshico.html
http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html
＜本誌記事の無断転載を禁じます＞

****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第 132 号
バックナンバー・購読申し込み／解除案内

http://nazuna.com/tom/denshico.html
http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html
2004.04.15（木）発行　　山崎農業研究所＆編集同人
mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp
**********ここまで『電子耕』**********

.